第14回都大会開催

全都自治会統一行動で筑波法案粉砕へ

―東京都委員会

四月十五日、同盟東京都委員会は新たに確立された中央委員会の指導の下、第十四回東京都大会を開催した。今大会は、四月二十五日文教委員会で審議が開始された筑波大学法案に対する撤底した討論がなされ全会一致をもって草案を採択した。

三大反帝勢力の強化されるイニシアチブの下に発展する現代史の中で、平和と平和共存の巨大な前進、国際通貨危機に象徴される帝国主義諸国陣営の政治的・経済的後退が顕著に表われている。また、国内においては帝国主義の政治的代理人田中の四次防を中心とした軍事力の強化の中で一方において反共冷戦政策は破綻し、エネルギー資源を発端に社会主義国との経済交流による平和共存への道を余儀なくされている。

中教審答申実質化を通して学園にかけられている政府・独占の攻撃は、実質化の段階からそれを法的追認、法制化による法レベルからの具体化への段階へと移行していく過程にある。

かかる情勢の下で、今大会の任務は①春闘労働者、日教組と連帯し、政府・独占の反動的大学再編＝筑波法案を全国学園スト、自治会統一行動をもって廃案に追い込み、勤労人民のための大学建設に向けた全国学友の闘いのヘゲモンとして登場するための意志統一をとること。②四次防、安保再編強化、軍国主義強化と対決して日ソ平和条約、アジア集団安保実現へ向けた方針、③狭山差別裁判反対等の各戦線の方針の確立であった。

我々はすでに、三月の再建十二回大会において、基本的な内外の特徴、とりわけ筑波法案をめぐる学園情勢を把握し全国的規模における各方針を確立している。この全国大会の確認に基づいて、全都における各方針は確立された。

すでに具体的活動に着手している諸同志により熱心に討議がなされ、とりわけ教育学園闘争方針では筑波法案が科学技術革命の進行下で一層の公的性格を増大させている教育、科学、技術を独占資本が占有しようとする大学改革プランの具体化であり、そうであるが故に、この筑波法案に対する闘いは全国学園に対する新大管法の実質的適用を許すのか否かという、大学の社会的帰属をめぐる独占と反独占の対決であることが多くの同志から強調された。その中で、現在日本共産党（代々木派）民青諸君は、階級的視点の欠落した超歴史的な「学問の自由」「大学の自治」をとなえている。「象牙の塔」を夢みる彼らに対する鋭どい批判の目が向けられた。

またこの闘いの勝利の展望が、全国学園の学生戦線統一のもとに全国自治会統一行動と、反独占闘争として労働者階級との連帯、特に現在しれつな闘いを展開している春闘労働者、筑波法案粉砕をかかげた日教組との連帯に存在することが基調草案や諸同志の発言で強調された。

反戦闘争方針では「国際主義の旗の下、日本軍国主義と対決し、反基地反安保闘争を闘う中、日ソ平和条約、アジア集団安保へ前進しよう」のスローガンの下、平和と平和共存の前進に向けた闘いの意志統一がなされた。

この他に原水禁運動、部落解放運動、反公害闘争など各戦線の方針が全員一致の賛成の下に確立され大会を終えた。

尚、大会スローガンは次の通り

春闘労働者、日教組と連帯し、筑波法案粉砕を、全都自治会統一行動、大衆的決起をもって闘い抜こう。

第12回大会来賓挨拶（続）

民学同の路線は勝利を約束されている

大阪唯物論研究会　小野義彦氏

私は、民主主義学生同盟に結集されている学生諸君が、その第12回全国大会の開催を成功裡にかちとられたことを心から嬉しく思います。

何故ならば、私は、現在我が国のいろいろな学生運動の組織の中で、民学同の掲げている綱領－平和と反独占民主主義の一般路線に沿ったその運動方針が、今日の現実に最も適切で唯一の合目的なものであると判断せざるをえないからです。

ベトナム停戦とその全インドシナ平和への発展はアジア集団安保への新しい展望を開きつつあり、ヨーロッパにおいては、全欧安保と全面軍縮を求める諸国民の希望は今や抑えがたい力となり、緊張緩和（デタント）の大きな潮流が動き出した中で、フランスの三月選挙や諸国人民の闘いが新しい歴史的な前進をかち取ろうとしています。大事なことは、他でもない平和の中で、確固とした永続する平和の諸条件がかちとられる中でその中でこそ社会進歩と社会改革をかちとる闘いの成功的な発展が保障されるということだと思います。

民学同の路線はこのような認識に基いている点で、合理的であり、それゆえに勝利を約束されているのだと思います。

しかし現在民学同の皆さんの運動は、今日の我が国の特に著るしい学生運動の混乱の中ですぐには大多数の学生諸君によって受けとめられない状態にあるとしても、皆さんの路線の正しさは必ずや時と共に客観情勢の動きそのものによって証明され、大きな共鳴をかちとり、近い将来の日本の民主的青年学生運動の主流となることができ又、現実にそうなられるであろうと私は強く確信し、期待しています。

民学同に対するこのような信頼と期待は、今から十年前に民学同が創立された当時においても、又その後に同盟の方針と組織の上に、いろいろな意見の相違や混乱さえもが生じた時においても一貫して変らないものでありました。それゆえに、今日このような混乱を思想的、政治的に克服して、輝かしい第12回大会をかちとられた皆さんに対し、心から御祝いの言葉を述べたい気持ちでいっぱいなのです。

民学同の学生諸君の一層の御健闘と確信に満ちた力強い前進を祈ってやみません。

政治経済教室

国家独占資本主義について

―ボッカラ論文の検討

編集局では、最近ますます議論されることが多くなっている国家独占資本主義について特集する。（詳しくは「日本のこえ」特集〝現代の帝国主義〟参照）今後も現代資本主義政治経済の理論問題について特集してゆきたいと考える。

〈国家独占資本主義の危機〉

ボッカラは「平和と社会主義の諸問題」誌に「国家独占資本主義の危機」という小論をよせている。（邦訳「平和と社会主義の諸問題」日本版、一九七三年春季号）ボッカラは「資本主義社会の現状を国家独占資本主義の危機と見ている。」彼はまたこのような現段階を「資本主義の全般的危機の決定的段階」と呼んでいる。

では、この一九六〇年代の高度成長期とはまったく様相の違った国家独占資本主義の危機の具体的徴候はどのようなものだろうか?

ボッカラはそれを七つあげている。

①急速なインフレ、国際通貨危機②世界市場での列強の競争戦の激化③失業の増大と生産成長速度の緩慢化の傾向④社会的必要のための支出や住宅・都市問題解決のための支出のいちじるしい遅れ⑤低開発国経済の危機⑥仏の5月ゼネストやイタリアの「熱い秋」など各国でくりひろげられた「新しい内容と規模の社会的、政治的闘争⑦資本主義社会の政治的・思想的危機

ついでボッカラは、このような国家独占資本主義の全体系の危機の徴候の経済的基礎を分析している。

〈国家独占資本主義下での資本の過剰蓄積〉

ボッカラは、国家の経済への介入の基礎を資本主義の利潤率低下傾向に求めている。国営企業や国家支出は私的資本と同じ利潤率を要求しないばかりか、無利潤ないし損失をもってすら維持できる。こうして独占資本の利益のためにおこなわれる国家の経済過程への介入は、独占資本の利潤率を高める。高められた利潤率は、資本の蓄積をさらに進める。こうして「過去数十年のあいだ新しい型の国家介入が私的資本の拡大再生産と蓄積を積極的に促進してきた」ことによって「実現困難な資本の莫大な過剰が生じた」のである。この過剰資本は増大した社会的必要をみたすためには利用されない。それは利潤を求めて投機にまわり、通貨危機を爆発させ、価格をつり上げてインフレーションを加速化している

このような過剰資本は恐慌によって処分された。しかし、資本主義の全般的危機と対応して「諸矛盾が激化し、階級闘争が高揚しているため、独占体は（階級矛盾を激化させる恐慌ではなく―引用者）これらの改造（国家独占資本主義的改造―引用者）に踏み切らざるをえないのである」こうして「景気が改善すれば、それにともなって新たに私的独占体による莫大な資本蓄積がおこなわれ、したがって時とともに巨額の長期的な過剰蓄積がふたたび生じる。まさにこの点に、国家独占主義の危機の本質がある」―こうボッカラは論じている。（資本論3巻参照）

〈独占体の危機対応策とその矛盾〉

これに対し、独占体とその国家は主要に次のような特徴をもつ危機対応策をとっている。①独占体の支配を強化するための国家の経済介入の強化②ECなど帝国主義間の同盟③独占体の賃金「凍結」ストライキ制限の試み、など。

しかしこの方策は危機を解決できない。それは矛盾を深め、将来に引きのばされた更に強力な爆発を準備するだけである。というのは「長期にわたる資本の過剰蓄積が、国家独占資本主義の枠内でおこなわれている。したがって、国家の経済介入によって（一九一四―一九四四におこなわれたように）それを克服することはできない。反対に新しい条件のもとでは、国家の介入そのものが独占資本の長期にわたる過剰蓄積にみちびくのであって、したがってそれは、危機の深化を阻止することはできない」

〈危機の解決策―先進的民主主義と人民側の対策〉

このようにしてボッカラは次のように結論している。「国家独占資本主義の危機の到来は、資本主義のすべての国ぐにで社会主義への移行の道、その道の独自性の問題を、日程にのぼらせている」「フランス共産党は、この国に社会主義への道をひらく先進的な経済的および社会的民主主義をうちたてることのうちに、国家独占資本主義の危機を打開する道を見ている」

もはや現在の危機は、主要産業および銀行独占体の国有化と国営企業の民主的管理を基礎とした独占資本家階級の特権のはく奪・経済社会制度の反独占民主的改造によってしか解決できないのである。このような国家独占資本主義の危機の反独占的解決のプログラムは、一九七二年六月に成立したフランス人民連合綱領に具体化された。日共＝代々木派が、重要産業、銀行の国有化の問題をあいまいにしたまま、あたかも独占資本の支配を倒す民族民主革命を遂行できるかのように主張している現在、このボッカラ論文は反独占民主主義をかかげるわれわれにとって注目されるだろう。

（この項終り）

思想戦線の混乱克服へ

東京　二回の社会科学講座開催

大阪　学生唯研入門講座準備進む

第二回　二〇〇名の参加

去る三月三十一日、首都東京において社会科学講座が開催され、好評のうちに第二回講座が四月二十四日に行なわれた。この社会科学講座は、青年労働者、学生を中心とした社会科学講座実行委員会の結成により、当面社会科学を学習する組織として発足した。

四月二十四日の講座には、二百名に及ぶ青年労働者、学生が参加した。講師には大阪市立大学より小野義彦氏を招き、第一回講座に引き続き、通貨危機、春闘をめぐる内外の情勢について講演がなされた。

第一回講座で小野氏はポストベトナムの基本情勢について「ベトナムから十数年間居直り続けた米軍が撤退」したことは世界三大平和勢力と連帯したベトナム人民の勝利であると話された。そして氏は米帝国主義がどこまで後退したのかそして今後のアジアにおける集団安保への展望をASEANの動きや中国の動向、日本のチュメニ油田開発などとからみ合わせて話された。

また国際通貨危機の現状と展望について通貨危機とりわけドル危機（資本主義全体の危機）による帝国主義間の経済的矛盾のより一層の激化について話された。

第二回講座では前回に引き続いて、危機の現状と我々の抵抗、具体的対案とそれを導く力は何かについて講演がなされた。

まず氏は国独資について規定され、その下で起っている過剰インフレ・物価騰貴などの基本的諸矛盾について解明された。とりわけ日本においては通貨危機をインフレ政策、過剰生産恐慌でおさえてそれを勤労者人民にしわよせし、実質賃金を低下させ、極度に労働分配率を低下させるというこれらの独占側の攻撃に対して労働者と国民の利益を代表する革新陣営からの「逆所得政策」実施の要求が、その陣営のプログラムであり、また、ドル・インフレの波及をくいとめるために対米依存構造をきりかえ、近隣諸国との貿易と経済協力を押し進めることが重要であると強調された。講演の後に熱心に討論がなされ、第二回の社会科学講座を終えた。

実行委員会では、今後も定期的に、青年労働者、学生の要求に応じた講座を開催することを予定している。

入門講座　日程決まる

我々の最良の武器、最大の力の源泉は、科学の力であり、思想の力である。我々が社会の発展の過程から闘争の必然性を認識し、その闘争の発展段階と発展方向を科学的に分析し、その闘争に「真の合言葉」スローガンを与えるときはじめて、我々は大衆をつかみ、分散的な運動を統合し、組織し、学生層全体を反独占闘争に立ち上らせることができるだろう。

学生運動が、その内部に強固なイデオロギー的中核を持つ必要性は、学生内部にさまざまな形の思想的混乱、ニヒリズム、アナーキズムが持ち込まれている現在、ますます大きくなっている。

学生唯研活動は、このようなイデオロギー戦線の一翼をになってきた。このような活動は、学生運動の諸潮流においては一貫して軽視されてきた。学生唯研は、大阪各大学において、大衆運動が非常に困難な中でも、持続され、唯物

連帯の絆更にかたく

大賀正行氏（部落解放同盟大阪府連）

民主主義学生同盟第12回全国大会を開催し、日本の学生運動の新しい発展の道を歩みだそうとしている皆さんに、心からの祝福と連帯の言葉を送ります。

部落解放運動は、今日、狭山差別裁判糾弾闘争と、特別措置法即時具体化の闘いを二本の柱に日本の民主運動にも教訓的な成果をおさめながら前進しています。

民学同の平和と平和共存、反独占民主主義の綱領は部落解放同盟の「平和と民主主義を守り、差別と闘い、生活を高め、部落の完全解放へ」という方針と全く合致するものだと確信しています。

そのことは、皆さんこそが、正しい部落研活動、解放教育運動、狭山闘争を闘い得ることを示しています。

日本共産党（代々木派）が部落解放同盟の闘いに全く許すべからざる妨害を続けている中で、特に大学を中心にした運動で、皆さんの一層の奮闘に期待しています。

また井波裁判長による11月結審を許さなかった力を更に大きく発展させて、石川青年の即時釈放の闘いに力強く取り組まれることを呼びかけるものです。

皆さんの発展を心から念じます

一九七三年　三月四日

部落解放同盟全国大会会場
京都岡崎公会堂にて

青年労働者と密接な連

長杉

私は、東京における民主主義学生同盟創立当時の経験と、現在私が関係している労働運動に関する若干の問題提起とを行なって、諸君に対する私の連帯と祝福のあいさつにしたいと思います。

一九六四年、佐藤内閣による日本帝国主義の本格的なアジア進出としてあった日韓条約の締結反対闘争が闘われていたさなかに、東京における民学同が結成された。

創立当時、メンバーは確か三名だったと記憶しています。最初、われわれは、他派から〝修太郎〟という代名詞で呼ばれるほどの少数派であった。しかし、われわれは、学友の前に民学同の趣意の立場、原則性・科学性・大衆性・戦闘性をかかげ、ねばり強く各学園で闘い、同盟ケルンを建設していくことができた。このような創立当時の闘いを通じて、われわれは趣意の立場の正しさを確認することができた。今、当時と比べられないほど都同盟は大きく成長しているわけですが、当時のわれわれの経験から言っても、この趣意の立場を固く堅持して闘いを進めていかれることをとくに強調しておきたいと思います。激しいインフレの下で、インフレをはね返す二万円以上の大幅賃上げは是非とも獲ちとらねばならない課題であるが、それとともに今年の春闘で

「新時代」を活用し、同盟強化と、同盟の飛躍的

活用し、同盟の理論的、思想的基礎の飛躍的拡大をかちとろう。

青年労働者との密接な連帯を

長杉普吾氏（東京自治体労働者）

私は、東京における民主青年学生同盟創立当時の経験と、現在私が関係している労働運動に関する若干の問題提起とを行なって、諸君に対する私の連帯と祝福のあいさつにしたいと思います。

一九六四年、佐藤内閣による日本帝国主義の本格的なアジア進出としてあった日韓条約の締結反対闘争が闘われていたさなかに、東京における民学同が結成された。

創立当時、メンバーは僅か三名だったと記憶しています。最初、われわれは、他派から〝修正〟という代名詞で呼ばれるほどの少数派であった。しかし、われわれは、学友の前に民学同の趣意の立場、原則性・科学性・大衆性・戦闘性をかかげ、ねばり強く各学園で闘い、同盟ケルンを建設していくことができた。このような創立当時の闘いを通じて、われわれは趣意の立場の正しさを確認することができた。今、当時と比べられないほど同盟は大きく成長しているわけですが、当時のわれわれの経験から言っても、この趣意の立場を固く堅持して闘いを進めていかれることをとくに強調しておきたいと思います。激しいインフレの下で、インフレをはね返す二万円以上の大幅賃上げは是非とも獲ちとらねばならない課題であるが、それとともに今年の春闘で

人勤体制打破へ全力

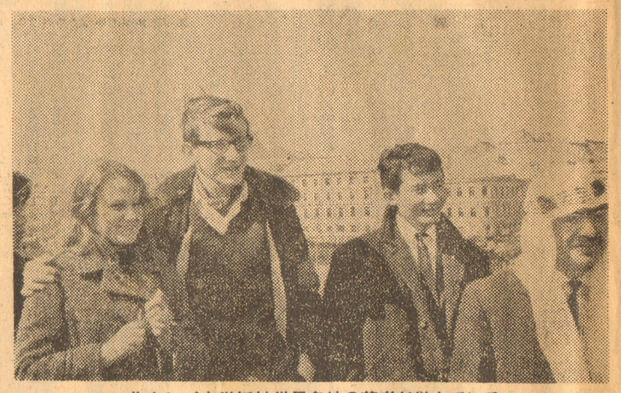
阪神自治体労働者有志

われわれも自治体労働者のなかで、あなた方と基本的に同じ方向の方針をもって闘っている友人とその統一のために倦むことなく闘って欲しいということである。

ともに奮闘しよう。

連帯の挨拶を送ります。

現在、われわれの属している自治労は、公労協を中心としたストの中で、極めて高揚しているこの現状権奪還、公務員共闘の人事員勧告体制打破という方針でスト権を奪われて以来始めての半日スト体制で春闘に突入しようとしていますしかし残念ながら自治労幹部自身が人勤体制打破の課題をどのように勝ちとっていくかの展望を明確に示しえず、半日ストを正しく位置づけていないために闘いの構築に弱さを含んでいます。われわれは、君との一層の連帯の強化を期待し、挨拶とします。



ルムンバ大学には世界各地の若者が学んでいる

ソ連の学生生活 投稿

——入試制度を中心として——

ルムンバ民族友好大学に5年間留学され、先ごろ帰国された一民氏から〝連の入試制度を中心に学生生活の様子を書いていただいた。このような実状を知る機会のまれなわれわれにとって極めて興味深い内容であろうと思います。（編集局）

×　×　×

モスクワで最も暖かい月、六月になると、学生寮のホールはカーテンで仕切られ、ベッドが並べられ、新顔の青年たちがここに泊り込む。十七、八才の中等学校（義務教育）新卒者もいれば、三十才に近い年齢のれっきとした社会人も少なくない。夏季休暇に入ると、彼らの数は急にふえ、学生の帰省や旅行で空になった寮の各部屋を占領し、大学中に彼らがあふれる。八月一杯には彼らは一旦引揚げるが、九月には彼らのうちの幾人かが新入生として大学に現われる。つまり彼らは〝連地から集まった受験生たちである。

ところで、彼らはどのような試験を受けるのだろうか。

ソ連において〝特徴的なことは成績の基準と評価の方法がより適正であり、その利用の範囲と限界が明確にされていること、また大学教育の機会が一旦就職した労働者にも広く与えられていることである。

また「現役組」にとっても受験生にとっても合目的的であり、大学にとっても盛んであり、一定の達成はじきにとり戻せるものである。また「現役組」にとっても、このような学生との長学は大変有意義なものとなろう。ソ連ではこの制度が、学生の実生活と学問を結びつけ、社会と学園とを結びつけるひとつのパイプの役割をはたしていると結論づけるのはそれほど誤ってはいないだろう。

ところでソ連邦で日本人学生が最も多く留学していたルムンバ民族友好大学は八九年以後日本からの採用をとりやめてしまった。この原因は共代々木派による日本における日ソ親善友好運動の混迷にある。〝政府がソ連との教育・大学関係の交流に故意に消極的である時に、大衆運動を基礎とした交流もまた不活発なのも一つの原因である。日ソ学生の交換留学等を含めた交流が、大幅度に行なわれるよう切に望んでやまない。

入試は、公労協の一員として、全国統一闘争の一環として、さらには同志として心から

定期講読、カンパのおねがい

同盟は画期的な再建12回大会の成功をかちとる中で、中央委員会の確立と同時に、全国政治新聞デモクラートを真に、宣伝、扇動、組織の武器として一層鍛え上げる編集局体制強化と、月二回発行を決定しました。

編集局ではこの決定に基づき、全ゆる努力を集中しています。つきましては、デモクラート定期講読の更新と、同盟へのカンパを読者の皆さんにおねがいいたします。

月ぎめ百円　年間　千円（送料込み）　振替　大阪三一七五一六

尚36号に関して、狭山闘争のスローガンが欠落していたこと、仏教実験について誤解であり、削除することを、おわびと共にお知らせします。（編集局）

知識と労働

第8号　5月25日発売！

価 480（〒80）

現代インフレの基本性格とそれへの抵抗線……小野義彦
——〝逆所得政策〟の提言
日共指導部の統一戦線論と議会主義……波多　然
現代の統一戦線——フランスの状況……海原　峻

●特集＝大学問題と学生運動
沖縄における私大統廃合政策……平良研一
資料集●沖縄大は存続めざし闘う／沖縄大学訪問記
筑波大学法反対の二つの視点……木下　譲
ルポルタージュ・東京教育大学の現状……大山　実
持続する大学闘争
学位不当審査に端を発した大阪市大工学部闘争…杉井一夫
〔書評〕竹中恵美子『現代の婦人問題』……外町　英

●民主主義学生同盟第十二回大会文書
挨拶とメッセージ＝志賀義雄／労働者党／知識と労働社／大阪唯研・小野義彦／大賀正行
大会テーゼ●帝国主義世界体制の危機と反帝反独占勢力の前進／日本帝国主義——その矛盾と動向／基調報告●当面する学生運動の課題とわが同盟の任務（一般政治・任務方針）
購読案内　本書は全国主要書店・大学生協で販売しています。店頭にない場合は書店を通じて新泉社（東京本郷二、TEL八一二一六六二）あて御予約下さい。定期購読（四号分送料共二千円）御希望の方は知識と労働社（振替大阪三〇二一二）あて前金でお申込み下さい。

婦人活動家必携　—政策と資料—

婦人と子どもの権利拡大のために

日本のこえ婦人部編　定価二五〇円（送料八〇円）

労働運動家必読の書

国際通貨問題と労働者階級

志賀義雄編　定価五五〇円（送料含む）

平和活動家必携の本

千島問題

アジア集団安全保障への道

志賀義雄編　定価九六〇円（送料含む）

日本のこえ出版局

東京都新宿区荒木町五（〒一六〇）
電話（三五三）八六六四—五振替・東京四〇一九四